

五産第1108号
平成20年10月20日

国土交通省道路局長 殿

熊本県五木村長 和田 拓也



今後の道路行政についての意見・提案について

平成20年9月19日付け、国道企第37号で依頼がありましたこのことにつきまして、別紙のとおり提出します。

今後の道路行政についての意見・提案

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

熊本県五木村

（更なる財政的支援）

過疎山村地域においては、公共交通機関が一部に限られており、移動手段は自動車だけである。

今後、他の手段が整備される可能性はなく、道路整備は今後必要である。

その為にも、地域の実情を考慮した、更なる財政的支援が望まれる。

（補助要件の緩和）

本来、道路管理者が行うべき維持管理業務（舗装補修等）も含めた更なる事業採択要件の緩和。

（川辺川ダム関連の道路整備）

「川辺川ダム建設を前提とした村づくり」に欠かせない基盤整備。特に国道445号・県道宮原五木（頭地大橋）の開通が不透明な状況にあり、早期の着工・完成が望まれる。

今後の道路行政についての意見・提案

②-1 地域の現状と抱える課題

熊本県五木村

○現状

地方（特に本村のような過疎山村地域）においては、公共交通機関が皆無に等しく、日常生活、地域間の交流、観光アクセス等、自動車が唯一の交通手段である。

本村へのアクセス道路は、国道・県道の2路線である。
国道については、川辺川ダム関連事業による整備により、中心地までは大型バスの通行が容易になり、県道についても郡境付近の改良事業が竣工し、以前に比べ通行が容易になった。

しかし、一部未改良区間では、依然として離合等に支障をきたしている。

○課題

幹線道路と奥地の集落を結ぶ路線が、一路線しかない集落が多く点在しており、近年の局地的な集中豪雨等に伴う災害による集落の孤立又は避難経路等の確保が懸念される。

これまで補助事業で整備してきた道路の橋梁や舗装等、老朽化がすすんでおり、今後の適切な維持管理への財源の確保が課題である。

今後の道路行政についての意見・提案

②-2 地域の目指すべき将来像

熊本県五木村

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

熊本県五木村

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	
幹線道路の早期整備	アクセス道路である、国道・県道の整備	大型バスの乗り入れが可能になる。 観光客の移動利便性の向上。 広域的な観光地間の連携。 本村へのアクセス時間の短縮	
確実に通行出来るネットワークの確保	豪雨や台風にも耐えられる災害に強い道路の整備	災害発生時における集落の孤立の解消 避難経路の確保	
山間部の道路整備	離合箇所等の設置	救急搬送時間の短縮	